



2017 年度 理事者の 1 年

2017 年度理事者の任期もあと 1 か月を残すところとなりました。今月号では、特集において今年度理事者のこの 1 年間の重点的な取り組みについてご説明いただきましたが、ここではそれに漏れた重要テーマ、任期終盤に向けての雑感、そして恒例の「会長が見た 6 人の副会長」と「となりの副会長」について、会長、副会長に語っていただきました。

任期終了に向けた所感

会長 瀧上 玲子 (35 期)



この原稿は 1 月半ばに書いていますので、やり残したことが 3 月の初めの段階でどのようになっているか気にかかるところです。

例年の執行部は初めに柱となる課題を立てて、取り組んできた成果の報告をしています。私の場合は、就任前後から重大な課題

が生まれたことから、「リスク管理と執行力の強化」を基本姿勢に掲げ、この 9 か月余りを送って参りました。

日弁連の委任状問題をきっかけに東京弁護士会の総会のあり方を考え、会則改正を伴う臨時総会を 3 月 19 日に開きます。会員の意思を総会に反映するにはどうしたらよいかを就任当初より真剣に議論して提案する議案となっています。

日弁連が昨年改正した預り金規程に基づく預かり口

座の届出やマネーロンダリング防止のための年次報告書の作成が始まりましたが、会員の負担軽減のための業務フローを試行錯誤しながら実行しています。そのほか弁護士会照会の受付方法の変更、印鑑証明等の発行機器や委員会資料配布等のための外部ストレージの導入など様々な業務改善を行いました。

さらに活動領域の新たな展開をサポートし、目白押しだった昨年秋の国際会議において、各国代表と交流し、当会の国際的地位を高めることに腐心しました。そのほか若手会員へのサポートとして、扶助相談への OJT 導入など一定の成果が出ています。市民や中小企業のニーズを重視したアクセス窓口の拡充も実現することができました。

残された課題をできる限り解決し、次年度に引き継ぎたいと考えています。引き続きのご支援をお願いする次第です。

瀧上会長が見た 6 人の副会長

遠藤副会長：大丈夫という言葉に時々不安を覚えるが、誰からも頼りにされる貴重な存在。

平沢副会長：真面目に会務に取り組む心構えを教えてくれる、女性理事者の鏡。

磯谷副会長：筆頭に起案を任されるも、完璧にこなす優れ者。筆頭からの誘いには要注意。

松山副会長：味のある説話にみな脱帽。多くの人々と熱き心で交流する日弁連理事。

露木副会長：好奇心が原動力の活動家。OA を仕切ることのできる 10 年に一人の逸材。

榊原副会長：最も若手ながら調整力抜群。司法試験委員と会務を両立させるパワーの持ち主。

あっという間の1年

副会長 遠藤 常二郎 (39期)



1年前、「楽しく生き活きと会務をしよう」をモットーに副会長に就任しました。理事者の1年間は会務に忙殺される日々でありましたが、仕事の内容は普段の弁護士業務とは趣を異にして、大変新鮮でした。今年度の執行部は、洲上会長の下に、全員がよくまとまり、各副会長が適材適所の役割を果たし、正に「楽しく生き活き」とした執行部であったと思います。

私は、筆頭副会長として、綱紀・懲戒、人事委員会等の委員会を担当させて頂き、また職員の労務の主担当も任されました。今年度は、綱紀・懲戒委員会の調査員制度のスタートの年でもあり、調査員制度を円滑に始動させ、滞留案件の迅速な処理をはかることが大きなテーマでした。また、昨年10月に言い渡された大規模法

人の懲戒処分執行は、はからずも、私の理事者の仕事として一番大きなミッションとなりました。この懲戒処分は、これまで弁護士会が経験していないほどの大規模なものであり、依頼者対応にも苦慮しましたが、多数の会員や関係者の皆様方のご協力を得て、何とか乗り切ることができました。

また今年度は、執行部就任早々、職員のライフ・ワーク・バランスの推進のために超過勤務の削減を目標に掲げ、各課に様々な工夫をして頂くとともに、各委員会の方々にもご理解ご協力をお願いしました。弁護士会の業務量は年々増加しております。この業務量に対応しつつ、超過勤務を削減するため、理事者も含めて会務に携わる人達の働き方を見直していかなければなりません。

1年間は、めまぐるしく、あっという間に過ぎ去ったというのが実感です。楽しい1年間でした。本当に有り難うございました。

となりの副会長が見た 遠藤 副会長

遠藤副会長は、今年度執行部の筆頭副会長ですが、優しく明るく強烈なリーダーシップで、副会長全員を引っ張っていられています。就任早々事務局全員の名前を覚え、事務局内に遠藤副会長の机があるほど、事務局に慕われ、今まで一度もゴルフをやったことのない磯谷副会長をゴルフの道に誘い込み、理事者間では「稀代の人たらし」と言われております。副会長になって飲み会が増えましたか、と聞いても、もともと毎日飲むのが当たり前だったから変わらないと答える人付き合いの良さは抜群です。

趣味はゴルフと自宅でバラを育てること。会長に対しては、「だ〜い丈夫ですよ」と言うのが口癖です。

(平沢 郁子)

感謝しつつバトンタッチ

副会長 平沢 郁子 (41期)



既に1月も下旬。残った任期は2ヶ月あまりとなりました。

私は、1年前の今ごろ、「若手や女性など多様な弁護士が活躍できる弁護士会をめざします」という公約を掲げていました。任期終盤の今、その公約をもっと実現できたのではないかと心残りもあります。が、今年度は日弁連女性副会長クォータ制も実現し、女性が会の意思決定過程に関わっていく度合いはどんどん進んでおり、次年度は女性副会長候補が二人もおられ、次にバトンタッチできることを嬉しく思っております。

それにしても、今年度の副会長は皆優秀で会務にも精通していて、みんなすごいなあ、と思う日々でした。個性豊かでありながら、協力し合えるメンバーと一緒に仕事できた濃密な1年でした。

副会長になって内部に入って、はじめて会がどのように運営されているのかを知ることができました。これからは、女性も若い方もどんどん理事者になっていただき、激動の弁護士会を新しい感覚で担っていただくことを期待しております。

理事者の皆様、事務局の皆様、その他の副会長の職を全うできるよう支えてくださった皆様、本当に有り難うございました。

となりの副会長が見た 平沢 副会長

ある朝、平沢副会長の机から煙がもうもうと立ち上がっていました。理事者たちがこれは火事かと大騒ぎしたところ、当の本人は「いいアイデアでしょう」と涼しい顔をしていました。煙の正体はそで機の引き出しの中に設置した加湿器から沸き上がっている水蒸気と判明しました。根っからの天然女史です。理事者の中で一番早く出勤してパソコンに向かってばりばり仕事をこなされています。飲み会のあとでも、事務所から夜中にメールが届きます。いつ眠られているのだろうかと思議です。弁護士会では洲上会長とともにダイバーシティのシンボルの存在です。休日は、家庭菜園に励んでいるそうです。いつか、収穫した野菜を戴きたいと思っています。

(遠藤 常二郎)

委任状問題から始まって

副会長 磯谷 文明 (46 期)



昨年3月に日弁連総会における委任状問題が発生し、私たちの執行部は波乱の船出となりました。しかし、結果的には再発防止の手立てをしっかりと講じることができた上、これを機に、東弁での総会の在り方、ひいては意思決定の在り方について検討することができました。それが後半の代理人選任届に関する会則改正に結びつきました。会員1万人時代の会運営の在り方は、引き続き検討しなければならない重要テーマだと思います。

思い出に残ったことは多々ありますが、WCBL（世界

大都市弁護士会会議）は、間違いなくその筆頭でした。単位会が国際交流をする意義を疑問視する見方もありますが、世界の法曹は共通の課題を抱えており、その克服のために知恵を共有する必要があります。世界の大都市の弁護士会幹部が一堂に会するWCBLは、そのためにとても価値があるフォーラムであると感じました。短期的な結果を求めず、継続することが大切です。

担当する公設事務所は、依然重要な役割を果たしつつも、大きな岐路にさしかかっているように思われます。改革は緒に就いたばかりですが、残された任期を精一杯走り切り、次の執行部にバトンを委ねたいと思っています。

となりの副会長が見た 磯谷 副会長

磯谷副会長は、とにかく「まめ」です。理事者会での重要検討事項を事前にメールでごまめに相談され、自発的にノートパソコンで会議内容を記録されていたこともあり、大変助かりました。某筆頭副会長は、「イソちゃん。お願い♡」といって起案を頼んでいましたが、嫌な顔一つせず進んで引き受けていましたし、語学堪能で多くの国際会議にも出席して対等に会話をされ、担当された法制委員会提出の膨大な意見書等も難なく理解されていて、我々理事者は自然と「プロフェッサー磯谷」と呼んで尊敬しておりました。大変お世話になりました。ありがとうございました。（榊原 一久）

「チームお上」の解散を迎えて

副会長 松山 憲秀 (46 期)



副会長という任務の終わりが近付いてきました。一つ所に留まることを許されない東弁という巨人が、些かの支障もなく働き続けられるよう、引き継ぎを意識する日々です。思えば、「足さなくても引くことはないように」と、おずおずスタートした任期でしたが、漸く副会長職の意義が分かり始めた頃合で退任となりそうです。会員の皆様には至らざるをお詫び申し上げなくてはなりません。

一方、個人的には収穫に溢れた1年になりました。日弁連常務理事兼務のお陰で、日弁連会長以下、日弁連執行部の方々と、全国から理事に選出された単位会会長・弁連代表の方々などの熱を間近で感じることができたことは、そのひとつでした。

しかし、なんといっても収穫の最たるものは「チーム

お上」の一員になれたことです。お気付きのとおり、洲上会長の「上」に因んだチーム名です。「チームお上」のカラーは自由奔放です。この一年、メンバーとは、思ったこと、感じたことを、わだかまりなく表現して共に悩み、腹の底から笑い合いました。物事に終わりはつきものです。こんな屈託のないチームにも解散の時がやってきますが、きっと融通無碍にヒョイッと顔を合わせられるでしょうから、寂しさはありません。

この原稿を書いているのは2月初旬ですので、任期は2ヶ月弱を残しており、チームにも私にも、まだ乗り越えなくてはならないハードルが控えています。また、予想外の突発的事態が出来るかもしれません。しかし、2ヶ月後も、今感じている暖かい幸運感が損なわれる心配は要らないと思っています。

役柄を顧みず、勝手なことを書いてしまいました。お許し下さい。一年間、お支え頂きありがとうございました。

となりの副会長が見た 松山 副会長

松山副会長と私は、研修所の同期生ですが面識は無く、副会長に立候補することとなった時が初対面でした。容姿、物腰、話し方、とても品が良く、私が「松山御前」と名付けました。一緒にゴルフもさせていただくようになりましたが、こちらでは「求道者」としての一面を見せていただいております。

人に対して真正面から向き合い、愛情と思いやりをもって接する、とにかく良い男です。私にとって、もうちょっと早くお会いしたかった人であります。

（露木 琢磨）

1年を振り返って

副会長 露木 琢磨 (46期)



昨年4月に副会長に就任して以来、主に財務、会館、業務関係の委員会、情報・システムなどを担当いたしました。

財務については、12月の臨時総会において、一般会計から会館特別会計への繰入金額の変更の件を決議いただき、退職給付引当資産の積立基準の明確化について、2月の常議員会において決議をいただく予定としています。

会館については、外壁の補修、清掃工事、講堂（クレオ）の改修工事が今年中に行われることとなり、20

年目の大規模改修工事についても入札の準備が着々と進んでいるところです。

業務関係の委員会につきましては、各委員会の委員の皆様への献身的なご尽力に感心、いや感動した1年でありました。

情報・システムについては、2018年度に予定されている当会基幹システムのサーバー入替の概要、基本方針につき、9月の常議員会で説明をさせていただき、さらに今年度中に、契約の締結につきご承認をいただく予定です。

今までの弁護士業務においては、全く経験することができないようなことを、1年間にわたり、体験することができました。まことにありがとうございました。

となりの副会長が見た
露木 副会長

「チームお上」のチームカラーが自由奔放であることはご紹介しましたが、その象徴的存在が私の机右隣りに鎮座する露木琢磨副会長です。露木副会長の発想はまさに天衣無縫・縦横無尽。想定外の方向から飛んでくる矢の様な着想にはチーム一同、何度となく驚かされ、なるほどと思わされました。

我がチームの漬物石？、刈上会長が「10年に一人の逸材」と評されたことに、異論など出よう筈ありません。

遊び心にも富み、行動力も破天荒な露木副会長ですが、人に対する暖かい想像力も兼ね備えていて、「よくもまあ、天はこんなにも魅力一杯なお人をチームに下されたもんだ」と手を合わせたいくなる気分です。私は露木副会長を「露木の御大」と呼ばせて貰っていますが、御大とは、生命続く限り、戯れたいと熱望しています。

(松山 憲秀)

ご支援いただきありがとうございました。

副会長 榊原 一久 (48期)



気がついたら1年が過ぎていた、という感じの怒濤の一年間。副会長に就任してからの一年間は、弁護士会がきわめて多くの役割を担っていることを常に痛感する日々でした。人権擁護活動、市民に対する法的サービスの提供のほか、

会員へのサービス提供や懲戒を含めた会員に対する指導監督、様々な政策提言など、きわめて多岐にわたる活動を行っており、そして一つ一つの活動が例えばある面では市民へのサービス提供であると共に会員サービスであ

るという多くの側面をもって複雑に絡み合っている場面にも直面し、どちらの方向性を示せば良いのか悩ましい場合も大変多かったように思います。

私が副会長としての役割を十分果たしてきたかは心許ないところではありますが、東弁事務局の方々や会員の皆様に助けられて、悩み考えながら一年間を東弁内で過ごしてきました。様々な難しい課題に対して、日々熱心に業務に取り組んでいただいている東弁事務局職員の方々や委員会等の活動をされている会員の方々にはただただ頭が下がる思いです。

皆様本当にありがとうございました。

となりの副会長が見た
榊原 副会長

榊原副会長は、本当に頑張り屋です。ただでさえ忙しい副会長の業務に加え、裁判員裁判の弁護人を務め、司法試験の採点まで担当していました。遠藤副会長から、「ゴルフは、そのうち磯谷さんに追い越されるよ」などとからかわれていますが、持ち前のガッツを考えると、決してそんなことはありません。一方、末席として損な役回りでもありました。代表例が会計係。飲み会の会計はいつも榊原副会長にお任せです。挨拶などもいつも最後。でも、そういう立場をさらりとこなすところが立派です。

業務としては、会長肝いりの司法アクセス改善を担当したほか、大規模事務所の業務停止案件でも活躍し、頼りになる存在です。いつもバリッとした髪型で決めています。温泉に行くとボマードがとれると、ちょっとかわいらしい「素」の榊原さんに出会うことができます。

(磯谷 文明)